

ESD フォトキャラバン

2007年に無形文化遺産をテーマに実施した ACCUアジア太平洋ESDフォトメッセージ・コンテストの入賞作品の巡回展です。38カ国 3,200点以上の応募作品から選ばれた80点の写真を通じて、ESD（持続発展教育）の学びの機会を提供しています。モンゴルのフォトキャラバンには大人から子どもまで多くの人々が参加し、他国の文化を理解するとともに自国の伝統文化を見つめなおす絶好の機会となりました。「目に見えない大切なことが、写真を通じてダイレクトに心にはいつてきました。素晴らしかったです」（京田辺市のアンケートより）

[モンゴル] ①1月6日～9日 ②モンゴルユネスコ国内委員会 ③モンゴル5都市 ④12月からの累計来場者数約3150人
[京都] ①1月8日～15日 ②京田辺シュタイナー学校 ③京田辺市 ④来場者数460人
[大阪] ①1月27日～2月9日 ②阿倍野市民学習センター ③大阪市 ④来場者数8159人
[岡山] ①2月22日～3月10日 ②岡山市環境保全課 ③岡山市

**韓国教職員招へいプログラム・
日韓教職員フォーラム**

本誌P6～9をご覧ください。
①1月12日～25日 ②ACCU・韓国ユネスコ

国内委員会、韓国教育科学部、文部科学省、外務省、教育委員会 ③東京・大阪・宮城・石川・和歌山 ④149名

**「すべての人がともに学ぶ未来へ
—困難な状況にある子どもたちに焦点を当てて—」
シンポジウム**

①3月14日 ②JICA / JNNE主催・ACCU共催
③東京

ACCU 事務所移動

3月29日（3階事務室を1階に統合）

奈良国際会議 文化遺産保護と人材育成

中国、インド、インドネシア、モンゴル、タイ、ベトナム、日本の専門家とイクロム（ICCROM文化財保存修復研究国際センター）所長、SEAMEO-SPAFA（東南アジア教育相機構・考古芸術センター）主任研究員をむかえ、文化遺産保護に関わる人材養成の報告をもとに、今後の効果的な人材養成について討議しました。

①1月28～29日 ③奈良 ④9か国17名

**奈良文化遺産国際セミナー平城遷都1300年記念
「古代の都を考える」**

2010年は、平城京遷都1300年、ベトナムハノイ遷都1000年の記念の年。ハノイのタンロン皇城遺跡は、7世紀頃から19世紀まで続いた

都城の跡で、最も古い時期のものは、遣唐使で中国に渡った阿倍仲麻呂が長官を務めた安南都護府である可能性も考えられています。今回の国際セミナーは、両都市の記念の年にちなみ、双方の遺跡で調査・研究に携わる第一線の研究者が最新の成果を発表し、ともに協力して次世代に引き継いでいく大切さを考える場となりました。

①1月30日 ③奈良 ④約350名

奈良世界遺産教室

次世代を担う奈良の高校生に文化遺産保護の重要性を楽しく学んでもらう出張教室。今回で延べ28校での実施となりました。

①1月12日 ③奈良県立西の京高校 ④40名
①2月8日 ③奈良県立高取国際高校 ④40名
①2月9日 ③奈良市立一条高校 ④40名

来訪者

1月26日 / Mr. Mounir Bouchenaki ICCROM（文化財保存修復研究国際センター）所長
2月5日 / Mr. T. M. Sakya ネパールノンフォーマル教育リソースセンター長
3月15日 / 横山義信先生 金沢市材木町小学校（ユネスコスクール）
3月25日 / Dr. Gumpanat Boriboon タイ Srinakharinwirot大学生涯教育専攻課程大学院18名